

LINE の OpenChat 機能を活用した防災訓練を鹿児島市で実施

AI 防災協議会(理事長:江口 清貴)は、2020年1月11日、鹿児島市が実施する「第50回桜島火山爆発総合防災訓練」において、LINE の OpenChat*機能を活用した訓練を行いました。

鹿児島市から「発災時、災害対策本部に情報が集約される中で多くの関係機関へ伝達を行う必要があるが、様々な状況において機関によっては全員に状況が行き届くのに時間がかかることが想定される。OpenChat によって情報が迅速に全員に届くことで、情報格差がなくなり同じ認識を持って状況に応じた対応を取ることができるようになることを期待している」と依頼いただき、今回の防災訓練の連絡手段のひとつとして活用されることとなりました。

「火山活動が急激に高まり、噴火警戒レベルが5の『避難』まで引き上げられた」という想定で、鹿児島市職員や鹿児島県警、消防など、現場で救助活動に参加する方々が、「火山活動の状況」「市避難情報の発令の状況」「残留者に対する対応要請」などについての情報共有を OpenChat を通して行いました。

公共機関と LINE が公式に OpenChat を活用した事例は今回が初めてで、約30団体、計190名が参加しました。LINE の ID 交換(友だち登録)をしなくともトークルームに参加できる特性が、大規模な組織間の合同利用を容易にしたこと、個人の LINE とは独立したプロフィール(所属や肩書き)を設定できるため、誰が何を話しているかが一目瞭然となり組織間の連携がスムーズになったこと、後から参加した方でもトークルームの情報を時系列順に確認できたことなど、災害時における OpenChat の有用性を確認することが出来ました。

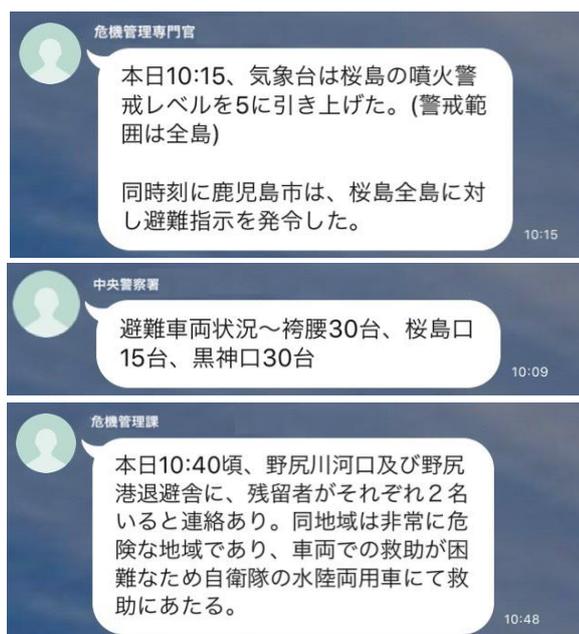
またこのほか、担当者が自発的に OpenChat を作成し、個別の連絡手段として活用されている事例もありました。

詳細は下記記事をご覧ください。

https://note.com/line_openchat/n/n626e01db4c8a

https://note.com/line_openchat/n/n19e291a7a2fa

訓練から得られた結果を踏まえ、今後の活用等について検証してまいります。



※プライバシー保護のため、プロフィールとトーク内容の一部を加工しております。



*本訓練は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社が、「防災意識の啓発等に関する協力協定」を締結している鹿児島市から、災害対応に活用できる取組の打診を受け、AI 防災協議会での情報交換を経て、LINE が複数組織かつ大人数での情報共有の手立てとして OpenChat を提案し、実現したものです。

*OpenChat 詳細については[こちら](#)をご参照ください